



## 工業教育史

### はじめに

平成29年度中部デザイン協会の事業で、会員リーディングを実施することになり、中部圏のデザイン誕生が日本経済とリわけ地域産業に果たした貢献は大きいものがある。

その中核をなしている中部デザイン協会の誕生秘話などが語られることとなった。

そのデザイン教育の口火を切ったのが愛知県立工業学校図案科(後の愛知県立愛知工業高等学校デザイン科)なので、その夜明けを話させていただくことになった。

これらのことは12月2日(土)クリエイティブビジネススペースコードで午後13時30分から開催されます。ぜひ参加されますことをお願いいたします。

西村が担当する「理事つれづれ」その前段で、前以て知っておいてもらいたいことをメインにまとめました。

この原稿を作成するにあたり、西村が及ばずながら一部の執筆を担当した「資料 日本工業教育史」2001年(平成13年)11月16日発行によるものであります。

### プレ工業教育

話を始めれば、人類誕生まで遡り、技能・技術のあけぼの期があり、古代の鉄器時代、

そして中世のギルド・徒弟制度へと変遷し、やがて近世の科学時代の萌芽が産業革命に導き、近代の科学・技術の時代(資本主義時代)が起こり、学校教育の源流から技術教育の発足に至っています。

技術教育では、イギリスで機械工講習所運動が発生し、その後アメリカの技術教育にも大きな影響を与えた。また反動で美術工芸運動(アーツアンドクラフト運動)へと続きます。

日本に目を転じれば、明治維新による近代国家・近代学校への歩みがあります。

始まりは、明治元年説もありますが、1841年(天保12年)の天保改革や1854年(安政元年)の日米和親条約締結に置くと、1871年(明治4年)廃藩置県あるいは1888年(明治22年)の大日本帝国憲法制定などがある。

文部省創設は、1871年(明治4年)で、工業学校規程制定(明治32年)である。

工業教育の成立は、1867年(慶応3年)ロシアのオペレーション法が先駆をなし、模倣を中心とした技術教育から脱皮を目指したもので、1876年(明治9年)にはアメリカにも導入された。1917年(大正6年)にアメリカのスミス=ヒューズ法とう職業教育の振興を目指した法律、1919年(大正8年)にソビエトのポリテフニズム法が、よき生産人・職業人を育成しようとした。

日本では、吉田松陰の「作場(実習場)と接続した学校」にさかのぼることができる。

中国のアロー号事件、インド独立紛争、セポイ事件に続く1858年(安政5年)アジアの全面的危機のなかで憂国の情から書き綴ったものがある。東京職工学校の工業教育思想の源流とされる。東京職工学校の初代校長手島精一氏は1889年(明

治24年)から1916年(大正6年)まで、手工教育、盲聾教育、企業教育を含めた技術教育全般に多大な業績を残した。

1898年(明治31年)には、全国に工業学校は12校、1905年(明治38年)には30校、徒弟学校を含め52校にもなった。設置課程は、染織・陶工・漆工・木工・金工などの工芸・軽工業から、造船・電気・鉱業・土木などの重工業へと推移し、教育課程も普通科目、職業科目、実習の三本立てとなった。今日の工業教育のスタートと見ることができる。

### 工業教育の起こり

1901年(明治34年)に愛知県立工業学校が創設されますが、そこに至る産声をあげるまでの経緯に興味深いものがあります。

明治維新後、新政府は富国強兵・殖産興業を旗印とし、欧米先進国と並ぶ強力な大日本帝国をつくることを国是とした。

その大本として学校教育による人材育成がとらえられた。「貧しいからこそ学校を造る」という長岡藩小林虎三郎の「米百表」の発想がここに生きている。激しいほどの就学率の上昇、国民皆学、明治期に識字率百パーセントに達した勢いは、欧米に「学ぶ」(まねる)ことによる近代国家形成に大きな力となった。

工業教育においてもかなりレベルの高い中堅技術者の育成が進められ、優れた工業人を輩出し、近代日本の社会基盤づくりだす層を厚くし、今日の日本国をつくった功績は多大なものがあった。

図案科(デザイン科)の設置に関する工業学校の設立年表では

明治20年	金沢工業学校 (石川県立工業高等学校)
明治27年	京都市立工芸学校 富山県立高岡工芸学校 (富山県立高岡工芸高等学校)
明治28年	愛知県立常滑工業学校 (愛知県立常滑工業高等学校)
明治31年	高松県立高松工芸学校 (高松県立高松工芸高等学校)
明治31年	岩手県立盛岡工業学校 (岩手県立盛岡工業高等学校)
明治34年	愛知県立工業学校 (愛知県立愛知工業高等学校) 岡山県立岡山工業学校 (岡山県立岡山工業高等学校)
明治35年	岐阜県立多治見工業学校 (岐阜県立多治見工業高等学校)
明治36年	佐賀県立有田工業学校 (佐賀県立有田工業高等学校)
明治39年	東京府立工芸学校 (東京都立工芸高等学校)
明治40年	大阪府立西野田職工学校 (大阪府立西野田工業高等学校)
明治42年	愛媛県立松山工業学校 (愛媛県立松山工業高等学校)
明治43年	群馬県立伊勢崎工業学校 (群馬県立伊勢崎工業高等学校)
明治44年	神奈川県立横浜工業学校 (神奈川県立神奈川工業高等学校)

### 複線型学校体系の成立

しかし、青年中期という体験を通して学ぶ大切な時期に、封建社会の残滓(残りかす)ともいえる上下関係が、国民を主流と伏流(キャリアとノンキャリアともいえる)の上下に位置付け、教育制度においても工業教育を受けた者を伏流的存在に固定化してしまったのは複線型学校教育体系の結果である。

普通科と職業科(専門学科)を、目標の異なる後期中等教育として並列に置き、その目標に達した生徒に同等に希望する進路を用意すべきであった。

単線型教育と複線型があるが、単線型はアメリカの学校制度がその典型で、すべての国民が同じ学生系統に学ぶ制度であり、一元学校体系とか民主的学校体系ともいわれる。

複線型は、二元的学校体系とか階級的学校体系ともいわれ、ヨーロッパの伝統的な学校体系であり、指導者層の学校体系と庶民の学校体系とが二分され存在することを指す。しかし、現在の世界の学校体系は、西ドイツのヒルカーの提案によるフォーク型、つまり初等教育は単線型で始まり、ある段階から複線型になる学校体系がほとんどである。

我が国の学校体系は、戦前は複線型、戦後は単線型になったとされているが、典型的なフォーク型学校体系といってよい。日本の高等学校には、学校種別によって、学習内容を度外視してランク付けする傾向が今なお強く残っている。高等学校三年間の学習状況を、学校種別毎の学習内容に応じて評価することなしに、進学競争が行われている限り日本の複線型学校体系は解消できたとはいえない。どのような学校種別においても、その目的に応じた真摯な学習を適切に評価し、進学にも就職にもさらなる夢が平等に与えられて、初めて日本の学校が単線化されたことになる。

### 愛知県立愛知総合工科高等学校の設立意義

愛知県工業学校が1901年(明治34年)御器所の地に産声を上げ、50年ほど経過して、北区の現在の地に学制改革で愛知県立愛知工業工学校に移った。それから50年21世紀の幕開けに、施設設備の老朽化と現状の厳しい学校評価を考へて、大改修を別の地を求めて申請をした。

伝統ある「愛工」という校名を捨ててまでも、21世紀型工業高等学校のスタイルを学校と産業界が一体となって教育するデュアルシステムを採用して提案をした。そして真の工業教育を体験してきている卒業生に初等教育から中等教育に及ぶ教育現場で教鞭をとってもらいたいと大きな夢を描いた。

幾つかの紆余曲折はあったものの、平成28年4月に元東山工業のあった星ヶ丘の地に、学校統合をして誕生した。今のところ機械系と電気系の専攻科がスタートするに留まっているが、すべての学科とリわけデザイン科にも専攻科設置を望んでいる。